



第110号

慶應看護同窓会
紅梅會會報

会長あいさつ

66回生 茶園 美香



令和を迎えた昨年、「おおきな災害がなく平和であること」を願ってスタートしました。しかし、各地を襲った3つの台風は、広範囲の地域で未曾有の被害をもたらしました。被害にあわれた会員の皆様にお見舞いを申し上げるとともに一日も早い復旧を願っています。毎年、日本のみならず世界中で発生している自然災害の背景として、環境問題が注目されています。一人一人が環境問題に関心を持ち、日常生活の中でできることを実践し環境問題に取り組む一員でありたいと思います。一方、明るいニュースもありました。新天皇の即位は穏やかな世界とつながる未来を想像しました。また、ラグビーワールドカップ2019における日本チームの活躍では、私と同じようににわか応援団となり元気をもらった方も多と思います。そして、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピック開催の時です。紅梅会会報第6号によると、1964年の東京オリンピックの時、慶應義塾大学病院の看護師が救護活動に参加されています。今回も紅梅会会員をはじめ、慶應義塾大学病院の医療職の方々が活躍されることが期待されます。

さて、2019年度の活動計画の一つとして、塾員(特選塾員を含む)として積極的に活動に参加することを挙げました。しかし、会員の皆様の中には、塾員について十分ご存じない方が多いと思います。今回は、その塾員について詳しい記事を掲載いたしました(2ページ)。厚生女子学院卒業生の紅梅会会員の方は【特選塾員】の申請が必要です。まだ申請されていない方はぜひ手続きをお願いします。

2020年度の紅梅会総会は、信濃町で開催します。昨年、一昨年の信濃町で開催した紅梅会総会で、慶應看護を学んだ思い出の場所で開催するのがとてもふさわしいと感じ、この場所に決定しました。また今回からは、総会に参加して下さった方が参加していただけますように研修会を同時開催します。ぜひご参加ください。

厚生労働省は今後の看護職の需給見通しの中で、看護職(看護師、准看護師、保健師、助産師)が2025年に約6万~27万人不足するとの推計を発表しました。ベビーブーム世代が75歳となり、看護・介護を必要とする人が増え看護不足になるというものです(日本経済新聞2019年10月24日記事より)。また、看護師の働く場は病院から、在宅ケアにシフトしているそうです。このように在宅ケアが必要な時代となり会員の方の中にも在宅ケアで活躍されている方が増えてきていることと思います。三田評論(2019年12月号No1239)では、特集「在宅ケアを考える」を取り上げ、その中で、「高齢化を支える在宅ケアの時代」という座談会が掲載され紅梅会会員の岩本大希君(学6回生)が参加されています。まさに今必要としている在宅ケアで活躍されていることがわかります。三田評論を通して多くの塾員の方に慶應看護を知っていただく良い機会にもなっていると思いました。

紅梅会会員のみならず、いろいろところで活躍されていると思います。活躍の様子を紅梅会のホームページや紅梅会会報で皆様にご紹介したいと思います。ご自身あるいはお知り合いの方をご紹介いただけたら幸いです。

それでは、5月の総会でお会いしましょう。紅梅会総会に参加された際には、東京オリンピック・パラリンピックに先立って、新しい国立競技場の周りを散策してみたいかがでしょうか。5月の若葉の時期、散策にちょうど良い季節です。お元気な皆様にお目にかかれたいことを楽しみにしております。

第110号の
主な内容

◆ 第35回生 内藤寿喜子先生を偲んで	2	◆ 学生コーナー	8
◆ 特選塾員について	2	◆ 慶應義塾大学病院トピックス	9
◆ 2020年度 第77回紅梅会総会、研修会のご案内	3	◆ 院内で活躍する専門領域看護師	10
◆ 2019年度 第76回紅梅会総会報告	4	◆ 院外で活躍する同窓生	10
◆ 紅梅会総会に参加して	5	◆ 同窓会だより	11
◆ 2018年度収支決算報告・2019年度収支予算	6	◆ 2019年度紅梅会役員・委員	12
◆ 連合三田会大会報告	7	◆ 紅梅会事務局よりお知らせ	12
◆ 看護医療学部だより	8	◆ 訃報	12

会報発送者数3,384名(2020年1月31日現在)

35回生 内藤寿喜子先生を偲んで

50回生 三浦 英子

内藤寿喜子さんは昭和28年卒業後から慶應の看護教育向上に深く長く寄与されました。その間には、紅梅会会長として5年間、会の発展のためご尽力頂きました。晩年は故郷佐久市の有料老人ホームでの生活でした。

ご退職後の20年余りは、手紙での交流をさせて頂きました。限られた行動範囲でご不自由なことが多かったことで、季節の変化に楽しみを見つけ喜びを感じ俳句にしたためられ、そしてご兄弟妹やホームの職員の方への信頼と感謝。常に穏やかで前向きな様子を手紙から感じ取っておりました。

『…千の風になって』の詩に出会えたことは幸運でした。“死んでからもあの空を駆け廻っている”と思えばなんとも愉快的な気持ちです。あの広い空をかけ廻って疲れたら何処で休もうかと考えて自分の休み場所を見つけました。春ならば、たんぼほの祭の輿に乗って憩うことにしましょう。夏ならば、真っ青な空にむくむく盛り上がる入道雲の峰に腰を下ろし“ヤッホー”と地上の人に呼びかけてみましょう。秋ならば、私の大好きな花野を渡ってくる花の香りをたっぷり含んだ風の絨毯の上に

寝そべてトロリトロリ。冬は、冬の銀河にも温泉ぐらいはあると思うので、温泉にゆっくり浸って次の飛び立ちに備えることにしましょう。などと考えていました。こう考えるだけで楽しくなります。…」最後に頂いた手紙の一節です。

いま、私は心穏やかですよ。私は大丈夫ですから心配しないでくださいと、文字としては書かれていませんが、この文面から感じ取ることが出来ます。思うようでない病状の中に在っても、他の人への気遣いに溢れている最後のお便りです。相手を深く思いやり心を配る、昔から変わらぬ姿勢のままでした。

享年87歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。



戴帽式での内藤先生

厚生女子学院・准看護学校・助産婦養成所卒業生の皆様 **塾員になりましょう!!**

塾員/特選塾員登録をしていますか?

《塾員/特選塾員って、何?》

塾員とは、慶應義塾の卒業生のことである。学生は「塾生」という。さらに、塾員・塾生・教職員・塾生の保護者の方々を「義塾社中」という。これは、義塾は義塾社中の共有のものであり、公共のためにこそつくべきだという考え方を表しているものである。

《塾員/特選塾員になると何がいいの?》

- ・生涯にわたる同窓生との交流や卒業後教育に参加できる。
- ・各種塾員招待会への招待
義塾には、①卒業25年塾員招待会(卒業式)、②卒業50年塾員招待会(入学式)、③卒業51年以上招待会の3つの招待会がある。塾員に対しては、該当年に義塾から招待される。
- ・慶應義塾図書館の利用資格
- ・慶應カードの申込と利用
- ・三田会(塾員有志の団体)への参加:紅梅会も三田会の一つで連合三田会に登録している。
- ・地域での三田会で、塾員間交流が可能。
- ・義塾評議委員選挙(4年に1回)で選挙権がある。短大・学部卒業生は被選挙権がある。

《塾員/特選塾員になるには?》

短期大学・看護医療学部の卒業生は卒業と同時に塾員となる。それ以外の卒業生で慶應義塾の職員として10年勤務した方は「特選塾員」となる。これらに該当していない方は、紅梅会からの推薦により特選塾員になれる。

《これから、どのようにしたら「特選塾員」になれるの?》

- ・紅梅会会長名で、「特選塾員」として同窓会推薦(年2回)ができる。「特選塾員」の希望者は、12ページ「特選塾員推薦」受付中を参照。
- ・特選塾員決定後、特選塾員証書授与式(2月初旬)で塾長より特選塾員証が渡され、懇親会授与式参加者と交流ができる。

《今までどのくらいの人が登録したの?》

厚生女子学院・准看護学校・助産婦養成所卒業生を対象にした特選塾員制度は、2001年より始まり紅梅会同窓会推薦として塾員登録された方は現在261名。まだ、多くの方が塾員登録されていない状況である。まだ登録されていない方は、塾員/特選塾員登録をして、卒業後の場と生涯教育の機会を広げ、社中協力に共感していきましょう。塾員や三田会に関することは慶應義塾ホームページに詳細がありますので、併せてご覧ください。

(引用・参考) 塾員ホームページ <http://www2.jukuin.keio.ac.jp/about/index.html>

2020年度 第77回紅梅会総会、研修会のご案内

準備委員長 84回生 江河 都美

第77回 総会の開催のご案内

会員の皆様、お元気にお過ごしでしょうか。

昨年は紅梅会総会と新病院棟1号館の見学会にご参加いただきありがとうございました。大変盛況に開催できましたことをとても嬉しく思っております。

今年も昨年同様、信濃町孝養舎にて第77回紅梅会総会を開催いたします。今年は開会時間を変更し、30分早めて10時開会といたします。お間違いのないようにご参加ください。

また、今年には総会の後に研修会を計画いたしました。最近の医療に関する話題の一つとして摂食嚥下に

関することが増えてきています。正しく嚥下してしっかり食事がとれるということは健康に暮らすために欠かせません。そこで今回は「摂食嚥下障害のリハビリテーションー誤嚥性肺炎にならないためにー」をテーマに取り上げました。レントゲン造影下での嚥下状態を動画で紹介しながら安全な姿勢など誤嚥性肺炎を予防するための方法を、日常生活でも活用でき看護力も高められる内容となっております。沢山の方のご参加をお待ちしております。

記

日時 2020年5月16日(土)

第一部 総会 午前10時00分～午前11時00分(午前9時40分開場)

第二部 研修会 午前11時30分～午後12時30分

テーマ：「摂食嚥下障害のリハビリテーションー誤嚥性肺炎にならないためにー」

講師：羽飼 富士男

慶應義塾大学病院リハビリテーション科課長 言語聴覚療法士

場所 慶應義塾大学病院内孝養舎2階202教室 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地

お問い合わせ先 TEL・FAX 03-3341-8116 (紅梅会事務局：月曜・木曜の13時～17時)

会費 2,000円(軽食：八竹の茶巾寿司をご用意します。)

ープログラムー

1. 開会の言葉・黙祷(10時00分)
2. 会長挨拶
3. 会員代表挨拶
4. 役委員会報告
5. 審議事項
6. 質疑応答
7. 新旧役員紹介・挨拶
8. 慶應看護婦の歌斉唱
9. 閉会(11時00分)

※新型コロナウイルスの影響で、総会・研修会の開催が変更になる可能性があります。変更の際は追ってご連絡いたします。

ー申し込みについてのご注意ー

※付き添いの方が参加される場合や、お食事の追加のご用命は、同封のはがきの通信欄への記載と入金をお願いいたします。

※車椅子が必要な方は、申し込み時にご連絡ください。
※総会は慶應義塾大学病院休診日になります。
※駐車場は別料金になっておりますので、公共交通機関をご利用ください。

※出欠席のお返事および入金は、同封のはがき、振込用紙で4月27日(金)までをお願いいたします。

ケアプロ株式会社 採用情報

ー革新的なヘルスケアサービスをプロデュースするー

予防医療事業部 セルフ健康チェック・健康イベント企画運営

こんな方は是非> 予防医療・健康づくりに興味がある。
新規事業を作りたい。社会課題を解決したい。

在宅医療事業部 訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所運営

こんな方は是非> 在宅医療・看護に興味がある方。
子育てや学業と両立して働きたい方。



2019年度 第76回 紅梅会総会報告

短12回生 高橋 可奈子

2019年5月11日(土)、85名の同窓生の方々にご出席いただき、慶應義塾大学信濃町キャンパス孝養舎2階202教室にて、第76回紅梅会総会を開催致しました。新元号「令和」の開始と共に慶應看護101年目を迎え、大変幸先のいいタイミングでの開催となりました。

審議事項は、「2018年度取支決算報告・会計監査報告」、「2019年度事業計画について」、「2019年度取支予算について」、「紅梅会会則変更について」、「2019年度新役員について」の5項が提案され、すべて承認されました。

前回の総会で、地方での総会や支部会の開催を希望する意見が出ましたが、役・委員会で検討した結果、今回も東京で開催になった旨が茶園会長より説明され、また、慶應看護100周年を記念して「慶應看護 紅梅会賞(仮)」の新設を検討している経緯について説明がありました。フロアから、様々な方面で活躍している慶應義塾で看護教育を受けた人の業績や働きなどに着目して評価をしたらどうかなど、受賞対象者の選定基準について多くのご意見をいただき、活発な意見交換となりました。

ました。本件は役・委員会で引き続き内容を検討し、詳細に関しては一任していただく事となりました。

また、今後は病院や学校とも連携し、看護同窓会として紅梅会のPRに繋がるような働きかけを期待しているとの声もいただきました。この事にも関連する内容で、茶園会長から慶應義塾の意思決定決議の最高機関である「慶應義塾評議員会」についての説明がありました。内部のみならず外部へも紅梅会の存在を発信していけるよう、将来的には紅梅会会員からも評議員が選出出来るようにしていきたい、そのための塾員登録をお願いしたいとお話がありました。

午後から新病院棟1号館の見学会を行い、見学会には74名の方のご参加をいただきました。新しくきれいになった院内と、「慶應看護同窓会 紅梅会」の銘板を見学し、学生の頃や看護師として勤務していた頃の思い出がよみがえり、皆様思い出話に花を咲かせていました。総会、新病院棟見学会ともに大きなトラブルなく開催する事が出来ました。ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。



慶應義塾赤倉山荘 www.sanshikai.jp/akakura/index.html

赤倉山荘に泊ってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ

赤倉山荘

電話：0255-87-3900 FAX：0255-87-3905
e-mail: ak-ko@hyper.ocn.ne.jp

赤倉山荘管理事務室(三四会内)

電話：03-3359-0227 FAX：03-3358-0664
e-mail: info@sanshikai.jp

紅梅会総会に参加して

85回生 フォクト純代(旧姓 光山)

厚生女子学院を卒業してから、昨年初めて紅梅会総会に出席しました。慶應病院に5年勤務した後退職し、結婚子育てに追われ、それでも何とか地域で看護師を続けていました。紅梅会の会報も毎年読んでいましたが「もう、私には関係ない世界」と思っていました。

ここ数年、恩師の茶園先生が紅梅会の会長になられ「一度は、総会に行かなければ…」と思うようになり、昨年令和に年号も改まり、心機一転信濃町に足を向けた次第です。

28年ぶりの慶應病院は、どれだけ変わったのだろうと思っていましたが、信濃町駅から横断歩道を渡った、正面入り口の景色は変わっていませんでした。中に入ると、在職中、深くかかわった患者さんと最後に見た桜の木があり、彼女の最期、霊柩車を見送った、救急外来の入り口も変わらずで、自然と涙が溢れてきました。思わず「ただいま」とつぶやいて、「ここに、私の原点があったんだ」と、強く思い、忘れていた自分をまた、見つけたような感動を覚えました。

そして、初めての紅梅会総会。大勢の諸先輩方が、日本の看護の未来、慶應病院の看護の将来について、熱く語っておられ、強く感銘を受けました。また、看護医療学部

長より、看護医療学部の近況報告を聞き、「私の卒業した厚生女子学院は、こんなに発展していたんだ」と、誇らしく思いました。

私が慶應病院にいた頃、新棟だった病棟はすでに役目を終え、代わって、日本の最先端の医療を司る新病院棟1号館が、中央に大きく建てられていました。

私が子育てをしている間、慶應病院、看護医療学部は、確実に進歩し、大きくなっていることが、とても嬉しかったです。

私も50代半ば、人生の折り返し点を過ぎ、子育ても終わり、残りの人生、のんびりしようかなと思いましたが、この日、紅梅会総会に出席し、一生懸命だった頃を思い出し、行けるところまで、看護師を続けていきたいと思いました。

厚生女子学院の卒業生である事、慶應病院に勤務していた事を誇りにもう少し、頑張りたいと思います。



進二9回生 荒牧 清美

同期の友人より、「紅梅会総会に参加しようよ」と誘いを受け、退職後初めて紅梅会総会(以下、総会)に参加しました。

今年の総会会場は、信濃町キャンパス孝養舎でした。受付を行い、教室の中に入り、同期を見つけた時はほっとしました。総会はプログラムに沿って進み、会長の挨拶、看護医療学部現状報告、大学病院現状報告、会員代表挨拶、各役員、委員会報告と続きました。大学病院現状報告を聞きながら、現在の平均経験年数10.2年、平均年齢32.7歳と聞き、私が就職した時は3年働いたら結婚して、子供産んで退職する人が多く、働きやすい職場になったのかなと感じました。その後、2019年度の事業計画について卒業生の方々から、活発な意見が出され、その熱のこもった意見には圧倒されました。午後からはお昼休憩後、グループに分かれ、新病院棟1号館の見学です。天井も高く広いという印象でした。医療関係者

と患者さんとのエリアが区別され、セキュリティ対策も施されて、IDカードがなければ移動できない場所もありました。一昔前、深夜勤務をしていると、新聞配達の方と会う病棟とは大きな違いでした。休憩室も各フロアーに配置され、全てのスタッフが共同で使用できるカフェテリアのような雰囲気でした。セキュリティボックスも用意されました。廊下も明るく、病室の窓からは神宮外苑が見えました。最後に「慶應義塾大学新病院棟建設事業募金」の銘板にある「慶應看護同窓会紅梅会」の名前を見つけ、確認し見学会は終わりました。総会に参加して、慶應看護の現状を知ることができて良かったと思います。また、もっと多くの同窓生が総会に参加できるようになればとも思いました。



2018年度収支決算報告・2019年度収支予算

(単位:円)

科目	2018年度予算額	決算額	2019年度予算額
1.事業活動収入			
1)会費収入	3,600,000	3,721,000	3,600,000
(1)終身会費	3,000,000	3,000,000	3,000,000
(2)年会費	600,000	721,000	600,000
2)総会参加費	120,000	322,000	120,000
3)広告料収入	35,000	15,000	35,000
4)寄付金収入	0	199,714	0
5)雑収入	2,000	27,129	2,000
(1)預金受け取り利息	2,000	1,859	2,000
(2)その他	0	25,270	0
事業活動収入計	3,757,000	4,284,843	3,757,000

2.事業活動支出			
1)会議費支出	1,147,000	530,887	1,142,000
(1)総会関連費	680,000	292,046	680,000
(2)役委員会関連費	467,000	238,841	462,000
①役員会	5,000	38,210	0
②役・委員会	200,000	98,149	200,000
③編集委員会	100,000	15,844	100,000
④準備委員会	40,000	13,351	40,000
⑤研修委員会	60,000	4,458	60,000
⑥役員推薦委員会	2,000	0	2,000
⑦ホームページ委員会	60,000	68,829	60,000
⑧慶應看護100年記念事業委員会	0	0	
2)事業費支出	2,883,802	1,263,297	950,000
(1)研修会費	50,000	97,102	50,000
(2)会報発行費	900,000	1,166,195	900,000
(3)慶應看護100年記念事業費	1,933,802	0	0
3)管理費支出	1,240,000	1,076,525	1,240,000
(1)人件費	800,000	835,752	800,000
(2)通信費	180,000	211,294	180,000
(3)消耗品等費	180,000	21,479	180,000
(4)ホームページ業務委託費	80,000	8,000	80,000
4)看護医療学部支援関連費	140,000	89,154	140,000
5)連合三田会関連費	40,000	49,383	50,000
6)予備費	50,000	0	50,000
事業活動支出計	5,500,802	3,009,246	3,572,000

慶應連合三田会大会報告

学4回生 小柳 淳

10月20日に2019年慶應連合三田会大会が日吉キャンパスにて開催されました。今回も紅梅会では、第4校舎の教室の一つをお借りし、慶應看護100年の資料展示と歴史を振り返るビデオの放映を行いました。この日のために遠方からご参加された方もおり、参加者一同で楽しく語り合うことができました。

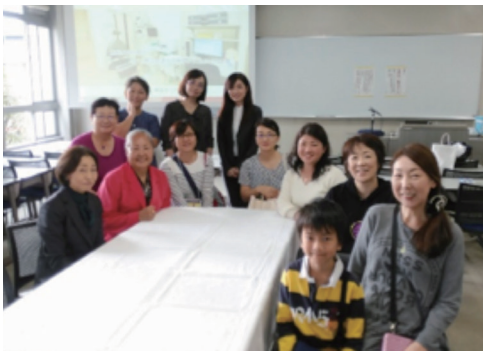
連合三田会大会当日は卒業50年の方々をご招待しての式典、シンポジウム、コンサート、福引抽選会等の多彩なイベントも開催されます。ぜひ皆様、来年はご参加ください。

●連合三田会大会における看護卒業生の活躍

連合三田会大会では、卒後40年、30年、20年、10年の学年が幹事学年となり、多くのボランティア実行委員により運営されています。今年も、多くの看護卒業生が医学部卒業生と一緒に救護所で活躍されていました。



会場内の様子



ご参加された皆様と



救護所で活躍されている卒業生



盛況な日吉キャンパス

● 2020年連合三田会大会のお知らせ ●

日時:2020年10月18日(日) 9:00~

場所:日吉キャンパス 日吉駅徒歩1分(東急東横線、東急目黒線/横浜市営地下鉄グリーンライン)

紅梅会ブースあり(場所は未定)

皆様是非ご参加ください。思い出を語り合しましょう。

看護医療学部だより

看護ベストプラクティス研究開発ラボラトリ・わかばの会の活動の紹介

学1回生 田村 紀子

看護ベストプラクティス研究開発ラボラトリ・わかばの会は、看護学の発展や大学教育の充実に貢献できるようキャリアアップを図りながら、創造的に研究・教育・実践に取り組むために発足した、看護医療学部の若手教員の会です。

活動の1つとして、毎年開催されているSFC(湘南藤沢キャンパス)のORF(Open Research Forum)に参加しています。今年度のテーマは「Beyond SDGs —SDGsの次の社会—」で、2019年11月22日(金)・23日(土)に六本木の東京ミッドタウンで開催されました。SDGs(持続可能な開発目標)のうち、「すべての人に健康と福祉を」に着目した看護ベストプラクティス研究開発ラボラトリの展示発表の中で、わかばの会では高齢者疑似体験の機会を設けました。IoTやAIなどを駆使し、高齢化や多様化が進む社会の課題と向き合う他学部や一般企業の方々に、看護の基本となる“対象理解”をベースとした教育、研究、実践の重要性をシェアし、協働のきっかけを創りたいという思いから企画したものです。

当日は、SFCの学生・院生、教職員(専門分野は建築や機械、農業、情報、政策など様々)はもちろん、中高生から自治体

の職員、一般企業の方など、100名近くの方が高齢者疑似体験に参加してくださいました。体験後には、「こんなにも動きにくい、見えにくいことに驚いた」「高齢者の気持ちを想像できた」「高齢者にもっと優しくしようと思う」などの感想が寄せられました。また「この体験を公園づくりに生かしたい」「建築やデザインを考える上で重要な体験になった」など、看護の視点や考え方にも関心を持ってくださった上で、ご自身の分野への応用を検討されていました。私達にとっても、来場者と体験を共有しながら、看護の強みをアピールしつつ、これからの時代に求められる看護の社会的な役割を模索する機会となり、学際的にコラボレーションしながらケアを開発・提供していく必要性を改めて感じた2日間となりました。今回の経験を基に、すべての人に健康と福祉を届けられるよう、引き続き活動していきます。



学生コーナー

往け 涯なきこの道を 究めていよ>遠くとも

学部4年生 小倉 麻希

私は9月に青田基金のご支援で台湾に渡航しました。身近な隣国という理由だけでなく、終末期医療の取り組みが非常に豊かで未来への示唆に富んだ学びに満ちていると知り、この国で終末期医療の実際を勉強したいと感じたためです。「一人一人のストーリーを聞き、人生の幕引きに丁寧に寄り添う仕事がしたい」。今からちょうど3年前、私はこう思い立ち、学士編入試験を受験して慶應看護の門を叩きました。異なる分野を学習後に飛び込んだ看護の世界で、当初は慣れない教科の数々に「理解できた」という感覚が持てず、時に苦しみましたが、私を支え続けた軸は、終末期医療に看護師という立場から携わりたいという夢でした。仏教精神が日常に色濃く息づく台湾には、患者さんの感じる、人生についての、或いは病める人としての悩みや痛み、苦しみに向き合い、張りつめた心を解きほぐす臨床宗教師という専門職があり、医療チームの一員として終末期医療の様々な現場で活躍しています。日本には普及していないこの仕事を知ったことを契機に、台北市にある臨床宗教師の在宅への派遣ステーションや、花蓮市に拠点を置く大学病院で、仏教精神に基づき終末期患者さん

を癒す意図でデザインされた緩和ケア病棟を有する、花蓮慈濟病院に伺いました。中でも特に印象深かった体験は、3日間の見学実習をさせて頂いた慈濟病院・緩和ケア病棟の張智容師長から「終末期看護ケアとは、遠からずやってくる悲しいお別れの前段階というよりも、温かく、対象者を癒すことのできる希望に溢れ、心豊かで常に創造的な看護の在り方です」とお声がけ頂いたことです。最後に頂いたこの深淵なお言葉を胸に留め、今も、そして卒業後も終末期看護の涯ない道を自ら探求し続けていきたいです。



慶應義塾大学病院トピックス

1.2019年4月看護師採用状況

87回生 加藤 恵里子

新採用者:118名(うち男性看護師1名)

新卒看護師:114名(看護医療学部71名、他校卒43名) 経験者:4名

出身校:北海道・東北4名(3.4%)、関東・中部102名(86.4%)、近畿・中国・四国3名(2.6%)、九州・沖縄9名(7.6%)

2.医療連携推進部が中心となり「顔の見える連携」を目指します

短1回生 片岡 美樹

1)退院支援の仕組みの強化

現在医療連携推進部には22名の看護師が所属し、入院前から退院後まで患者さんをサポートしています。入院を申し込んだ時点から、患者さんや家族、地域の方から情報収集し、病状に合わせて病床調整し、病棟看護師と情報を共有します。当部署配置の専門・認定看護師は、高度な医療処置やケアがある場合、患者さんや家族への直接指導や療養相談を担います。医療ソーシャルワーカーと協働し、患者さんが安心して速やかに望む治療療養生活が送れるよう活動しています。2019年9月から、退院支援看護師は担当病棟を持ち、退院支援の強化に取り組んでいます。

2)医療連携推進フォーラム開催

2018年度より地域医療機関との連携強化を目的に医療連携推進フォーラムを開催してきました。2019年11月8日開催の第5回は、訪問看護ステーション、訪問診療、高齢者相談支援センター、連携病院等75名の方がご参加くださり、院内の教職員94名との交流の場になりました。

第1部は、加藤看護部長より当院の地域連携の現状報告、続いて医療チームから取り組みの報告がありました。さらに地域の窓口となる「医療・看護・介護相談コールセンター」開設について紹介しました。これは、患者さんの状況確認を急ぐ場合など、地域の方からの問い合わせ窓口をわかりやすくする取り組みです。新宿区健康部副参事白井淳子様より「慶應義塾大学病院が本気で地域連携強化に取り組んでいると感じた」とお言葉をいただき、メンバー一同、胸を熱くいたしました。

第2部の懇親会は2号館11階のレストラン「ザ・パーク」で開催しました。今後の連携の輪が広がり、ご意見をいただく貴重な機会となりました。今後も地域との連携を深め、患者さんが速やかに住み慣れた地域での生活に戻ることができるよう活動していきたいと思っております。



加藤恵里子看護部長(87回生)からの報告場面



3.Tokyo2020オリンピック・パラリンピック大会開催に向けて

短1回生 宗廣 妙子

来る2020年夏の祭典に向け、目の前に新国立競技場が位置する当院は、様々な想定に対応すべく準備を進めています。公益社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会からの要請対応や医学部・病院が行うべき医療支援体制の構築、国際化整備や人材の育成等を目的として2017年12月信濃町にオリパラ準備WG(2019年7月より委員会へ変更)が設置されました。また2019年5月、その下に病院オリパラ運用WGを設置し、診療受け入れや防災、警備、教職員対応などについて具体的な検討を重ねています。オリパラ組織委員会からの要請を受け、会場医療責任者、ならびに観客用医務室メディカルスタッフとして医師31名、看護師28名を派遣します。2019年9月の説明会を皮切りに、派遣スタッフへの研修をスタートし役割発揮に向け準備を行っています。この経験が今後の病院発展に繋がる様、進めて参ります。





院内で活躍する専門領域看護師

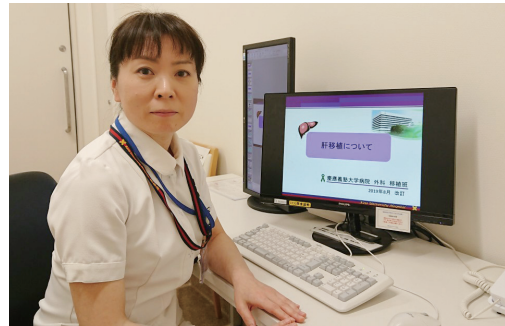
「レシピエント移植コーディネーター」という仕事

短8回生 高岡 千恵

私は就職後配属された一般・消化器外科病棟で、生体肝移植を受けるレシピエント・ドナーの看護を経験していく中で、臓器移植医療に強く関心を持つようになり、将来「レシピエント移植コーディネーター(Recipient Transplant Coordinator: RTC)」の仕事に就きたいと思うようになりました。2010年春に前任者から引き継ぎ看護部から私を含め2名が配置となりました。私は当初泌尿器科病棟に配属され腎移植担当として兼務し、2011年から主に肝移植担当となり現在に至ります。RTCは日本移植学会の認定資格となっています(5年毎更新制)。

RTCは、日本ではレシピエント(臓器移植を受ける方)と生体ドナー(臓器を提供する方)を対象とし、レシピエントとドナー、医師、フォローアップ病院など患者さんに関わる様々な方達との橋渡しをしながら、レシピエントやドナーの意思決定支援、移植待機中の体調管理をはじめ様々な相談対応、脳死移植登録業務、移植後のサポートなどあらゆる業務を行っています。時にはドナー候補者や家族の苦悩、複雑な家族関係に触れることもあります。責任の重さを痛感しながらも遣り甲斐のある仕事だと感じ、日々業務に従事しています。

臓器移植医療は末期臓器不全の患者さんにとって救命のための唯一の治療選択肢です。移植を希望されても様々な理由で移植を受けられずに命を落とされる患者さんが少なくないことはとても辛いことですが、移植を受けたレシピエントやドナーが元気に回復され社会復帰していく姿を間近で拝見すると、この医療の素晴らしさを実感します。これからもこの仕事に従事し、また今後は後進の育成にも力を入れ、当院での臓器移植医療が受け継がれていくよう貢献していきたいと思っています。



院外で活躍する同窓生

地域に根差す訪問看護師として

ケアーズ白十字訪問看護ステーション 短6回生 服部 絵美

私の学生時代は部活に明け暮れ、再試験の掲示板にはいつも名前が出ているような学生でした。ただ、実習は大好きで、患者さんの全体像をイメージしようと、頭の中には短大で学んだ関連図がいつも浮かんでいました。今の私の看護の原点はそこにあるかもしれません。

卒業後は慶應義塾大学病院に就職し、呼吸器内科・外科混合病棟や外来で、若い世代のがん患者さんの看護に携わることがありました。肺癌の診断を受け入院して手術を行い、その後化学療法も行うのですが、若い方は再発も早く、病院で多くの時間を過ごす姿を見て、もっと家族や大事な人と過ごすことができないのだろうかと思っていました。

4年間勤務した後大学に編入し、地域での看護を学び、その間に今の職場である白十字訪問看護ステーションに勤め始めました。その後も働きながら大学院で学び、2009年に所長になり、現在訪問看護師16年目ですが訪問看護の魅力にすっかりはまっています。

訪問看護は、疾患や障害を抱えながら生活する利用者の「その人らしい生き方や暮らし」を大切にしながら、生活しづらい部分を看護の視点で支援していきます。利用者の生活が中心のため、医療や看護が前面に出てこないように、多職種で協働しながらその人の日常を支えます。最期まで自宅で暮らしたい方の支援に携わることも多く、最期まで生きる姿からたくさんのことを学ばせて頂いています。ご遺族と訪問途中に出会って立ち話することも多く、地域で活動していると、人と人とのつながりを強く感じます。今後も地域に根ざした活動を訪問看護の実践を通して行い、地域に貢献できるステーションとして在り続けられるよう頑張りたいと思っています。



同窓会だより

令和元年 第22回 クラス会

68回生 柴田 聖子

2019年6月4日、みちのく秋田の角館温泉花葉館において、1泊2日のクラス会を開催しました。全国各地から21名もの参加者。そして、卒業以来私たちを見守ってくださった三浦英子先生も、東京から駆けつけてくださいました。46年ぶりに会った人もいて、一気に学生時代に戻りました。宴会で一人ひとりの近況報告があり、仕事で活躍している人、手芸・洋裁・ダンス・音楽・スポーツ・ボランティアなど多方面で頑張っている人など、68回生の皆さんは素敵に年齢を重ね、人生を前向きに楽しんでいる意気込みを感じました。

2日目は武家屋敷見学。角館の武家屋敷は、国の伝統的建造群保存地区に指定され、その審議会の委員をしている私の夫が武家屋敷の河原田家・岩橋家・松本家・町並みの景観を案内しました。ちなみに岩橋家・松本家は、映画「たそがれ清兵衛」のロケ地です。

強い絆のもと、一緒に学んだことを人生の糧としている68回生は、秋田の小京都・角館で、3年後の熊本での再会を誓いました。

いにしへの 風に出会った 武家屋敷

聖子

同級会 命の響き 確かめる

聖子



麗輪会～学部4回生の初めての同窓会～

学4回生 萩原 加奈子

紅葉が色づき始めた爽やかな秋晴れの11月に、学部4回生の同窓会を開催し、卒業生36名、教員12名、家族9名の総勢57名が集まり賑やかな時間を過ごしました。

卒業から早や11年、学年全体での同窓会開催は卒業後初でしたが、顔を合わせるとすぐに大学時代に戻ったかのように会話が弾みました。久しぶりに会った同窓生は、看護師・保健師・助産師として各地で働いていたり、教員や大学院生、会社員など多方面で活躍していたり、家族が増えたり、様々な道を歩んでいました。仲間から刺激を受けると同時に、「看護を離れていても、どこかで看護につながっていることを忘れ

ないでね」という山下香枝子先生のお言葉が心に響き、励みになりました。また、吉野肇一先生より「学年同窓会のネーミングを付けてはどうか」とご提案いただき、案を募り、皆で投票した結果、「08年卒のれいわ、初回同窓会が令和元年のれいわ、いつまでも美しく手を取り合っていこう」という意味を込めて、『麗輪会』という名前に決まりました。

今回改めて同窓の仲間とつながり、会えたことに感謝しています。麗輪会という名の通り、いつまでも美しく輪を大切にしていきたいと思います。

幹事:伊比井、南、山崎、萩原



記念品のエコバッグとキットカット

2019年度紅梅会役員・委員

会長	茶園 美香 (66)	研 修	☆藤原 聡子 (学10)	準 備	赤木 紀子 (短9)
副会長	川畑 貴美子 (67)		中野 美雪 (学13)		星野 真理子 (学5)
書 記	☆内藤 理恵 (短7)	編 集	松山 絵莉香 (学14)	役員推薦	大和田 紗代 (学12)
	高橋 可奈子 (短12)		◎羽成 陽 (学8)		◎☆吉安 麻耶 (短9)
小林 良子 (学1)	☆浦口 紘子 (学3)		石井 亜希子 (短10)		
加藤 貴美代 (短6)	☆滝花 亜理沙 (学8)		佐藤 清香 (学1)		
☆梶川 幸季 (短6)	坂口 志穂 (学11)		◎宮田 千秋 (学10)		
会 計	☆立川 臣子 (70)	準 備	小澤 美悠 (学12)	ホームページ	☆櫻井 純子 (学2)
	上田 優子 (短12)		☆船田 茉佑 (学12)		半田 友里香 (学10)
会計監査	◎小柳 淳 (学4)	☆滝沢 春菜 (学12)	◎江河 都美 (84)	紅梅会事務	☆斉藤 友花里 (学10)
	☆天野 秀基 (学5)	☆田中 翔太 (学9)	新藤 香織 (短9)		☆益子 梓 (学12)
研 修					浅田 頼子 (68)

() : 卒業回生 ◎ : 委員長 ☆ : 新役員・委員

紅梅会事務局よりお知らせ

会報はメール便でお送りしております。住所・氏名等を変更された時は、必ず事務局までご一報下さい。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。事務局は下記の曜日に在室しておりますが、都合によりお休みをいただくこと、会議等により曜日を振り替えることもありますのでご了承ください。

事務局在室時間: 月・木曜日 13時～17時
 長期休み: 夏休み8月、年末年始2週間程度
 直通電話・FAX: 03-3341-8116



68回生 浅田 頼子

「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から今までに261名の方が紅梅会推薦により特選塾員となりました。まだ特選塾員になられていない会員の方で推薦をご希望の方は右記の項目を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送り下さい。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

1. 氏名(楷書で)・ふりがな
2. 生年月日
3. 現住所・電話番号
4. 回生または卒業年月
5. 学歴(高校以降)
6. 職歴

訃報

2019年12月31日現在

13回生	田中 朝尾 (旧姓真溪)	2019年1月17日	33回生	武井 敏子 (旧姓大島)	2019年12月22日
19回生	田中 キヨ (旧姓高橋)	2019年1月15日	35回生	内藤 寿喜子	2019年11月19日
22回生	北川 ゆり子 (旧姓塚田)	2019年5月18日	38回生	石橋 アサ (旧姓遠藤)	2019年1月11日
25回生	横森 文子 (旧姓相田)	2019年3月16日	38回生	國吉 和子 (旧姓石井)	2019年10月2日
26回生	野口 妙子 (旧姓横山)	2019年1月5日	59回生	牛田 千佐子 (旧姓西田)	2017年3月
28回生、助24回生	野澤 芳子	2019年2月15日	59回生	太田 登美子	2018年10月
28回生	山口 美知子	2018年2月2日	59回生	広重 昌子	2019年3月24日
28回生、助24回生	古山 眞佐子 (旧姓黒澤)	2018年6月8日	短10回生	田村 綾	2018年6月26日

編集後記

皆様からのお力添えを賜り、無事に第110号会報を発行することができました。この場を借りて御礼申し上げます。新たな元号の始まりの年に編集に携われたことを大変光栄に思います。今後も紅梅会がますます繁栄していけますよう、温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

編集委員長 学8回生 羽成 陽